ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。（建築基準法施行令第９３条）

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県県土整備部建築課

調 査 地 点 位 置 図 S=1:500

ボーリング柱状図

調　査　名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町１６６４－１			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 2月 16日 ～ 27年 2月 18日	東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=100.10m	角度	180°上 90° 0°下	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	TEC-1	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	20.07m								エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-A

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	99.45	0.65	0.65		埋土	茶灰			0.25mまで、アスファルト，砕石以深、礫混じり粘土主体
1	98.50	0.95	1.60		粘土	褐灰			粘性，含水とも中位 炭化物の含有が多い 色調変化あり
2					火山灰質粘土	暗灰～青灰～暗茶灰			2.0m付近、粘性中位 2.4m付近より、暗灰色 3.0m付近より、有機物，軽石点在 4.0m付近より、青灰色 4.2～4.3m間、茶灰色 5.0m付近より軽石混じり粘土 7.3～7.5m間、軽石挟む 8.0m付近より、暗茶灰色 少量の有機物混じる 下部ほど、軽石多くなる。 11.0m付近より、暗灰色 所々、炭化物含有 粘土化した軽石挟む
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11	88.50	10.00	11.60						
12	87.40	1.10	12.70		強風化凝灰岩	暗灰～暗褐			粘土化している。 12.2m付近より、暗褐色
13	86.50	0.90	13.60		強風化凝灰岩	暗褐灰			凝灰岩の風化帯とみられる 粘土化が進む
14					凝灰岩	暗褐灰～暗茶灰～暗灰			上部ほど風化している 短棒状のコアとなって採取される 16.0m付近より、暗茶灰色 強く固結している。 ときには角礫状となる 18.0m付近より、暗灰色 砂状に細粒化する 硬く、強固となる
15									
16									
17									
18									
19									
20	80.03	6.47	20.07						

孔内水位(m)／測定月日：1.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	2	2	5/30	5
1.45					
2.15	1/22	1/15		2/37	2
2.52					
3.15	1/21	1/16		2/37	2
3.52					
4.15	1/16	1/19		2/35	2
4.50					
5.15	1	1/16	1/19	3/35	2
5.53					
6.15	2	2	5	9/30	9
6.45					
7.15	4	4	2	10/30	10
7.45					
8.15	1/40			1/40	1
8.55					
9.15	1/18	1/13		2/31	2
9.46					
10.15	1	2/15	1/8	4/33	4
10.48					
11.15	1/15	1/13	1/9	3/37	2
11.52					
12.15	5	6	8	19/30	19
12.45					
13.15	5	4	4	13/30	13
13.45					
14.15	16	12	10	38/30	38
14.45	60/7			60/7	257
15.15					
15.22	60/6			60/6	300
16.00					
16.06	60/5			60/5	360
17.00					
17.06	60/6			60/6	300
18.00					
18.06	60/6			60/6	300
19.00					
19.06	60/7			60/7	257
20.00					
20.07					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
4.00	孔内水平載荷試験

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（一）

掘進月日：2/16　2/17

ボーリング柱状図

調　査　名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.2	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町１６６４－１			北緯	
発注機関		調査期間	平成 27年 2月 20日 ～ 27年 2月 24日			東経	
調査業者名	[illegible]	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=99.84m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
総掘進長	23.04m					試錐機	TEC-1	ハンマー落下用具	半自動落下
						エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-A

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事
	99.14	0.70	0.70		埋土	褐灰			0.45mまで、アスファルト,砕石以深、山砂土体
1	98.04	1.10	1.80		埋土（腐植土）	黒灰			粘土化が進む 腐植物の含有が多い
2	97.64	0.40	2.20		埋土（粘土）	暗灰			粘性に富む 軽石混じる
3					火山灰質粘土	淡灰～茶灰～暗茶灰			強く粘土化している。 2.5m付近、微細砂挟む 3.5m付近より、茶灰色 少量の有機物混じる 5.0m付近より、暗灰色 5.5m付近、軽石点在 6.0m付近より、淡灰色 ときには軽石混じり粘土優勢 8.0～8.5m間、軽石多量に挟む 9.0m付近、淡茶灰色 下部ほど、色調変化あり
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10	89.24	8.40	10.60						
11					シルト質粘土	暗灰～淡青灰			強く粘土化する 粘土質シルト挟む 12.0m付近より、淡黄灰色 色調変化あり
12									
13	86.59	2.65	13.25						
	86.04	0.55	13.80		粘土質シルト	暗灰			粘性に富む
14					シルト質粘土	茶灰			粘性,含水とも中位 所々、軽石点在 14.0m付近、含水あり ときには軽石混じり粘土状 17.0m付近より、木片混じる
15									
16									
17	82.24	3.80	17.60						
18					凝灰岩	青灰			均質な基盤岩とみられる φ5～50mm程度の礫状となる。 強く、固結している。 短棒状のコアとなる
19									
20									
21									
22									
23	76.80	5.44	23.04						

孔内水位(m)／測定月日：1.50／7/7

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1/29	1/21		2/50	1
1.55					
2.15	モンケン自沈			0/35	0
2.50					
3.15	1/13	1/14	1/12	3/39	2
3.54					
4.15	1	2/16	1	4/36	3
4.51					
5.15	1	1/11	1	3/31	3
5.49					
6.15	1/15	1/11	1	3/36	3
6.51					
7.15	1/40			1/40	1
7.55					
8.15	3	4/12	3/12	10/34	9
8.49					
9.15	1/35			1/35	1
9.50					
10.15	2/15	1/9	1/8	4/35	3
10.51					
11.15	2/16	1/9	1/11	4/33	4
11.48					
12.15	1/14	1/12	1	3/36	3
12.51					
13.15	1	2	5	8/30	8
13.45					
14.15	モンケン自沈			0/30	0
14.45					
15.15	2	1/7	2/13	5/30	5
15.46					
16.15	2/13	2	2/9	6/32	6
16.47					
17.15	2/14	2	2	6/34	5
17.49	60			60/10	180
18.09					
18.19					
19.00	60/6			50/6	300
19.06					
20.00	60/9			50/9	200
20.09					
21.00	60/7			60/7	257
21.07					
22.00	60			60/10	180
22.10					
23.00	60/4			60/4	450
23.04					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1.15	2-1			
1.65				
2.50	2-2			
3.35				
5.15	2-3			
5.51				
12.15	2-4			
12.51				
14.15	2-5			
14.49				

2/20　2/21　2/24

ボーリング柱状図

調　査　名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.3	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町１６６４－１			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 2月 19日 ～ 27年 2月 19日	東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=100.56m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	TEC-1	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	11.96m								エンジン	NFD-10	ポンプ	V6-A

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事
	100.01	0.55	0.55		埋土	茶灰			0.30mまで、アスファルト、砕石以深、山砂主体
1	99.65	0.35	0.90		埋土（腐植土）	黒灰			粘土化が進む
2					強風化凝灰岩	褐灰～暗褐灰			凝灰岩の風化帯とみられる 強く粘土化が進む 3.0m付近より、暗褐色 4.0m付近より、褐灰色 下部ほど、硬質粘土状となる
3									
4									
5	94.96	4.70	5.60						
6					風化凝灰岩	茶灰～褐灰			上部ほど風化している 短棒状のコアとなる 7.0m付近より、褐灰色 強く、固結化する
7									
8									
9	91.46	3.50	9.10						
10					凝灰岩	暗青灰			比較的均質な岩盤とみられる φ5～30mm程度の塊状となる 下部ほど、強固である
11	89.50	1.96	11.06						

孔内水位(m)／測定月日：0.30 ▽

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	2	4	7	13/30	13
1.45 / 2.15	3	3	3	9/30	9
2.45 / 3.15	6	5	5	16/30	16
3.45 / 4.15	9	10	10	29/30	29
4.45 / 5.15	7	8	9	24/30	24
5.45 / 6.15	60/8			60/8	225
6.23 / 7.15	49	11/2		50/12	150
7.27 / 8.15	27	21	12/6	60/26	69
8.41 / 9.15	37	23/2		60/12	150
9.27 / 10.15	45	15/3		60/13	138
10.28 / 11.15	60/5			60/5	300
11.21					

N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						2/19

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.4	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町1664－1			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 3月 9日 ～ 27年 3月 10日	東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H=100.30m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	14.09m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	99.20	1.10	1.10		埋土	暗灰～黄灰			0.50mまで、アスファルト,砕石以深、シルト混じり砂主体 下部ほど、山砂優勢
	98.40	0.80	1.90		埋土	暗褐			有機質シルトからなる 粘土分や腐植物混じる
2	97.60	0.80	2.70		埋土（粘土）	暗灰			粘性に富む 少量の腐植物含有
3	97.00	0.60	3.30		火山灰質粘土	青灰			粘性、含水とも中位 所々、軽石混じる
	96.50	0.50	3.80		軽石	乳灰			φ2～30位の粗砂
4					強風化凝灰岩	茶褐～黄灰			粒子不均一 所々、軽石点在 粗砂状のもが多い 6.2～7.0m間、粘土化する 下部ほど、色調変化あり
5									
6									
7									
8	92.40	4.10	7.90						
9					風化凝灰岩	黄灰			所々に風化している 強く、固結する 短棒状のコアとなる
10	89.60	2.80	10.70						
11					凝灰岩	暗黄灰			全体に棒状コアで採取される 上部ほど風化している ときには礫状となる 硬く、強固である
12									
13									
14	86.21	3.39	14.09						

孔内水位(m)／測定月日：1.20

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1/35			1/35	1
1.50					
2.15	モンケン自由			0/35	0
2.50					
3.15	2	3	4	9/30	9
3.45					
4.15	4	5	6	15/30	15
4.45					
5.15	8	4	5	17/30	17
5.45					
6.15	5	5	6	16/30	16
6.45					
7.15	5	5	6	16/30	16
7.45					
8.15	11	10	13	34/30	34
8.45					
9.15	43	17/2		60/12	150
9.27					
10.10	60/5			60/5	350
10.15					
11.05	60/2			60/2	900
11.07					
12.05	60/3			60/3	600
12.08					
13.05	60/2			60/2	900
13.07					
14.05	60/4			60/4	450
14.09					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
				3/9

ボーリング柱状図

調　査　名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No.5	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町１６６４－１			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 3月 11日 ～ 27年 3月 13日	東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H=100.13m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	16.07m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	99.73	0.40	0.40		埋土	暗灰			0.40mまで アスファルト,砕石以混、山砂主体
1 2	97.83	1.90	2.30		粘土	黄灰			粘性,含水とも中位 色調変化に富む
3 4	95.23	2.60	4.90		火山灰質粘土	暗灰			粘性中位 所々、軽石含有 下部、灰色混じる
5 6 7	92.43	2.80	7.70		粘土質シルト	緑灰～青灰			粘性に富む 5.0m付近まで緑灰色 7.0m付近まで青灰色 硬質化が目立つ
8 9 10	89.63	2.80	10.50		強風化凝灰岩	青灰			粒子不均一 所々、軽石点在 全体に粘土分混じる ときには砂状となる 下部、暗黄灰色
11 12 13	86.93	2.70	13.20		風化凝灰岩	暗青灰～暗灰			上部ほど風化している 強く、固結する 10.5～10.8m間、小礫点在 下部、砂礫状となる
14 15 16	84.06	2.87	16.07		凝灰岩	暗黄灰～暗灰			短棒状のコアとなる 15.0m付近より、暗灰色 下部ほど、均質である 硬く、強靭となる

孔内水位(m)／測定月日：0.50

標準貫入試験

深度 (m)	18cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1/8	2/12	2	5/30	5
1.45 2.15	0/15	1	1/8	2/33	2
2.45 3.15	1/13	1/12	1	3/35	3
3.45 4.15	1	1	1	3/30	3
4.45 5.15	1/8	2/14	2/8	5/30	5
5.45 6.15	3	3	5	11/30	11
6.45 7.15	4	3	4	11/30	11
7.45 8.15	3	3	4	10/30	10
8.45 9.15	6	8	5	17/30	17
9.45 10.15	8	8	9	25/30	25
10.45 11.15	17	17	26	60/30	60
11.45 12.15	20	21	19/9	60/29	62
12.45 13.15	60/6			60/6	300
13.21 14.19	60/4			60/4	450
14.14 15.06	60/2			60/2	900
15.07 16.06	60/2			60/2	900
16.07					

原位置試験：深度 (m)　試験名および結果

試料採取：深度 (m)　試料番号　採取方法

室内試験（　）

掘進月日：3/11　3/13

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	No.6	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町１６６４－１			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 3月 14日 ～ 27年 3月 16日	東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=100.35m	角度	180°上 90° 0°下	方向	北0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	19.12m								エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	99.55	0.80	0.80		埋土	暗灰			0.70mまで、アスファルト,砕石以深、山砂主体
1 2	97.65	1.90	2.70		粘土	暗灰～褐灰			粘性に富む 2.3mより、褐灰色 比較的均質である
3 4 5 6 7 8 9	91.06	6.60	9.30		火山灰質粘土	褐灰～暗褐灰～暗灰			粘性中位 所々、軽石含有 4.0m付近、腐植物混じる 4.5m付近、木片含む 6.0m付近より、暗褐色 9.0～9.3m間、暗灰色
	90.65	0.40	9.70		固結火山灰質粘土	黄灰			硬質化・固結化進む 棒状コアで採取される 粘性,含水とも中位
10	89.55	1.10	10.80		火山灰質粘土	茶褐			粘性中位 所々、軽石点在
11 12	88.05	1.50	12.30		強風化凝灰岩	黄褐			粒子不均一 所々、軽石混じる 下部、粗砂状となる
13 14	85.55	2.50	14.80		風化凝灰岩	茶褐～暗黄灰			強く、固結化している 粘土混じり砂状優勢 13.7～14.0m間、コア棒状 14.5～14.8m間、砂礫状
15 16 17 18 19	81.23	4.32	19.12		凝灰岩	青灰			均質な岩盤層とみられる コアは塊状,岩片状が多い φ20～40mm程度の角礫状含む 硬く、強固となる

孔内水位(m)／測定月日：0.65 3/12

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1	1	1	3	3
1.45					
2.15	2	1	1	4	4
2.45					
3.15	2	2	2	6	5
3.48					
4.15	2	2	1	5	5
4.45					
5.15	2	2	1	5	5
5.45					
6.15	1	1	2	4	4
6.47					
7.15	1	1	1	3	3
7.47					
8.15	3	3	4	10	10
8.45					
9.15	7	10	10	27	27
9.45					
10.15	2	3	3	8	8
10.45					
11.15	6	8	9	23	23
11.45					
12.15	11	16	25	52	52
12.45					
13.15	7	13	12	32	32
13.45					
14.15	29	19	12	60	64
14.43					
15.15	60			60	257
15.22					
16.05	60			60	300
16.11					
17.15	60			60	180
17.26					
18.15	60			60	180
18.26					
19.15	60			60	300
19.17					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日：3/14　3/16

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

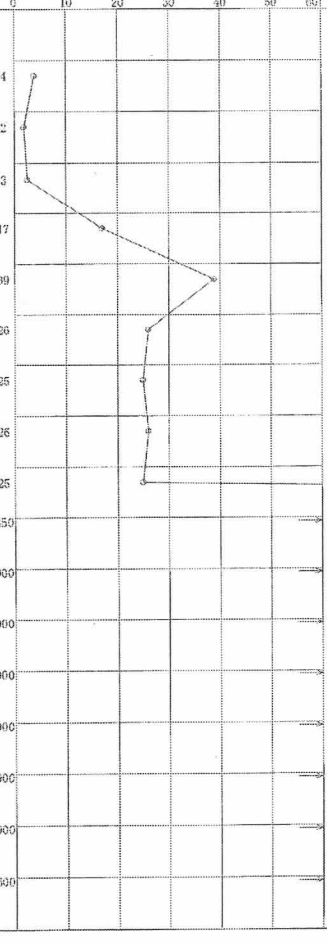
ボーリング名	No.7	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町1664－1			北緯	
発注機関			調査期間	平成 27年 3月 17日 ～ 27年 3月 19日		東経	
調査業者名	主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者
孔口標高	H=100.40m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	17.08m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	99.90	0.50	0.50		埋土	暗灰			アスファルト,砕石主体 以深、粘土,砂含む
1	98.50	1.40	1.90		粘土	黄灰			粘性に富む 少量の腐植物混じる
2 3 4 5	95.10	3.40	5.30		火山灰質粘土	黄灰			粘性中位 所々、軽石混じる 腐植物,木片含有 下部、固結化する
6 7 8 9	90.50	4.30	9.60		強風化凝灰岩	暗黄灰～茶褐			硬質化・固結化進む 棒状コアで採取される 火山灰質砂挟む 7.0m付近、乳白色混じる 所々、角礫状の岩片点在
10 11 12 13 14 15 16 17	83.32	7.48	17.08		凝灰岩	暗緑			強く、固結化する 均質な岩盤とみられる 10.5～10.8m付近、砂礫状 所々、短棒状のコアとなる 角礫凝灰岩とも思われる 5～10cm位のコアで採取される 掘進時は時間を要する 岩はきわめて硬質である 特別に強固となる。

孔内水位(m)／測定月日：2.95 3/17

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1/8	2/15	1/7	4/30	4
1.45					
2.15	1/20	1		2/30	2
2.45					
3.15	1/12	1/12	1	3/34	3
3.40					
4.15	4	6	7	17/30	17
4.45					
5.15	8	15	16	39/30	39
5.45					
6.15	6	11	9	26/30	26
6.45					
7.15	5	7	13	25/30	25
7.45					
8.15	6	11	9	26/30	26
8.45					
9.15	8	8	9	25/30	25
9.45	60/4			60/4	450
10.05					
10.09	60/2			60/2	900
11.05					
11.07	60/2			60/2	900
12.05					
12.07	60/2			60/2	900
13.05					
13.07	60/2			60/2	900
14.05					
14.07	60/2			60/2	900
15.05					
15.07	60/2			60/2	900
16.05					
16.07	60/3			60/3	600
17.05					
17.08					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						3/17
						3/18
						3/19

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託（追加調査）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	追加No.1	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町1664－1			北緯	
発注機関		調査期間	平成 27年 6月 17日 ～ 27年 6月 19日			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H=99.98m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	20.25m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事
	99.08	0.90	0.90		埋土	暗灰			0.60mまで、アスファルト、砕石以葉、粘土混じり砂主体
1	98.38	0.70	1.60		旧表土	褐灰			粘性、含水とも中位 腐植物や小礫混じる
2	97.68	0.70	2.30		凝灰質粘土	暗黄灰			粘性に富む 浮石、小礫混じる
	97.28	0.40	2.70		粘土	暗青灰			粘性強い 少量の浮石混じる
3					有機質粘土	暗褐灰			粘性に富む 浮石、腐植物混じる
4	95.08	2.20	4.90						
5					浮石	暗灰			粗粒状となる 5.0m、含水多い 6.0m、粘性土混じる
6									
7	92.88	2.20	7.10						
	92.28	0.60	7.70		礫混じり細砂	黒灰			粒子不均一 堀固砂優勢
8					火山灰質シルト	暗灰			粘性少ない 砂分や細礫点在 棒状に固結する 砂質シルト優勢 下部、φ5～50mm前後の礫含む
9	90.18	2.10	9.80						
10					有機質粘土	褐灰～暗灰			粘性に富む 腐植物、木片混じる 細砂を薄く挟む 下部、浮石点在
11	88.03	2.15	11.95						
12					強風化凝灰岩	茶褐～暗黄灰			12.0m、茶褐色 少量の浮石点在 色調変化あり
13									
14	85.48	2.55	14.50						
15					風化凝灰岩	黄灰～暗黄灰～暗灰			上部、黄灰色 棒状コアとなる 17.0m、暗灰色 硬質化、固結化する 部分的に角礫状となる。
16									
17									
18									
19									
20	79.73	5.75	20.25						

孔内水位(m)／測定月日：2.70

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
1.15	1/16	1/14		2/30	2
1.45					
2.15	2	2	3/13	7/32	7
2.47					
3.15	1	2/13	1/7	4/30	4
3.45					
4.15	1/12	1	1	3/32	3
4.47					
5.15	1/20	1/25		2/45	1
5.60					
6.15	2	2	2	6/30	6
6.45					
7.15	4/15	4	2/7	10/32	9
7.47					
8.15	3	4	4	11/30	11
8.45					
9.15	10	7	11	28/30	28
9.45					
10.15	2/15	2/9	2/6	6/30	6
10.45					
11.15	1/13	1	1/7	3/30	3
11.45					
12.15	8	7	8	23/30	23
12.45					
13.15	9	8	8	25/30	25
13.45					
14.15	7	12	17	36/30	36
14.45					
15.15	35	25/7		60/17	106
15.32					
16.15	22	38		60/20	90
16.35					
17.15	12	26	22/5	60/25	72
17.40					
18.15	28	32/9		60/19	95
18.34					
19.15	33	27/5		60/15	120
19.30					
20.15	60			60/10	180
20.25					

N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
1.60	1-1	
2.45		

室内試験（　）

掘進月日：6/17　6/18　6/19

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託（追加調査）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	追加No.2	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町1664－1			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 6月 20日 ～ 27年 6月 23日	東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	H=99.91m	角度	180° 上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	21.14m	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下	
			エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対硬度	記事
1	98.81	1.10	1.10		埋土	暗灰			0.20mまで、アスファルト，砕石混じり、粘土混じり砂主体 所々、ガラ・礫混じる
2	97.11	1.70	2.80		火山灰質粘土	黄灰			粘性，含水とも中位 少量の浮石混じる 含水多く、ゆるい
3	95.21	1.90	4.70		有機質粘土	褐灰～暗褐			粘性に富む 3.0m、腐植物含有 4.0m、浮石点在
5	92.61	3.20	7.90		火山灰質シルト	暗灰			粘性中位 少量の腐植物混じる 6.0m付近、浮石多い 一部、硬質化する
8	90.61	1.40	9.30		火山灰質砂	暗灰			砂は固結状となる 少量の浮石混じる 強風化の凝灰岩とみられる
10	87.21	3.40	12.70		火山灰質シルト	褐灰～暗褐			粘性少ない 所々、浮石点在 9.3mより、暗褐色 少量の砂分混じる
13	84.61	2.60	15.30		強風化凝灰岩	青灰～緑灰			固結シルト状となる 13.8m、棒状コアで採取される 14.0mより、緑灰色 角礫状の岩片混じる
16	84.11	0.50	15.80		浮石混じりシルト	暗褐			粘性少ない 所々、浮石混じる
17	78.77	5.34	21.14		凝灰岩	褐灰～青灰			新鮮な岩盤とみられる 棒状コアで採取される 徐く、固結化する 角礫凝灰岩とも思われる 掘進は時間を要する 2.0m付近より、青灰色

孔内水位(m)／測定月日：1.75

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1/5	1	2/15	4/30	4
1.45					
2.15	1	1	1	3/30	3
2.45					
3.15	2/15	1/5	2	5/30	5
3.45					
4.15	2/12	2/12	1/6	5/30	5
4.45					
5.15	2/15	1/5	2	5/30	5
5.45					
6.15	4	4	6	14/30	14
6.45					
7.15	2	2	3	7/30	7
7.45					
8.15	19	27	14/4	60/24	75
8.39					
9.15	3	2	7	12/30	12
9.45					
10.15	1/15	1/8	1/7	3/30	3
10.45					
11.15	2/14	2/11	1/5	5/30	5
11.45					
12.15	2	2	2	6/30	6
12.45					
13.15	7	8	9	24/30	24
13.45					
14.15	8	12	18	38/30	38
14.45					
15.15	4	4	5	13/30	13
15.45	60/1			60/1	1500
16.02					
16.53	60/1			60/1	1800
17.22					
17.52	60/2			60/2	900
18.05					
18.07	60/2			60/2	900
19.05					
19.07	60/3			60/3	600
20.19					
20.13	60/4			60/4	450
21.19					
21.14					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（ ）

掘進月日：6/17　2/18　2/19

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託（追加調査）

ボーリングNo.

事業・工事名

シート No.

ボーリング名	追加No.3	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町1664－1			北緯	
発注機関				調査期間	平成 27年 6月 25日 ～ 27年 6月 26日	東経	
調査業者名		主任技師	野尻久二男	現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H＝99.82m	角度	180 上 90 下 0	方向	北 0 270 西 90 東 180 南	地盤勾配	水平 0 鉛直 90	使用機種	試錐機	KR－100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	5.50m								エンジン	NFD－12	ポンプ	V6－B

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
1 2 3 4 5	94.32	5.50	5.50		埋土	暗灰～黄灰			0.05mまで、アスファルト 0.70mまで、砕石 3.60mまで、礫混じり粘性土 粘土、ローム主体 3.60mより、暗灰色 浮石、腐植物混じる	2.79

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1／22	1／18		2／40	2
1.55					
2.15	1／25	1／20		2／45	1
2.60					
3.15	1／50			1／50	1
3.65					
4.15	1／25	1／20		2／45	1
4.60					
5.15	1／17	1／18		2／35	2
5.60					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
1.50	現場透水試験
2.00	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
				6／25

ボーリング柱状図

調査名　新上都賀庁舎新築工事基本・実施設計業務委託（追加調査）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	追加No.4	調査位置	栃木県鹿沼市今宮町１６６４－１			北緯	
発注機関		調査期間	平成 27年 6月 24日 ～ 27年 6月 24日			東経	
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	H=100.13m	角度	180°上 90° 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	KR-100	ハンマー落下用具	半自動落下
総掘進長	5.50m								エンジン	NFD-12	ポンプ	V6-B

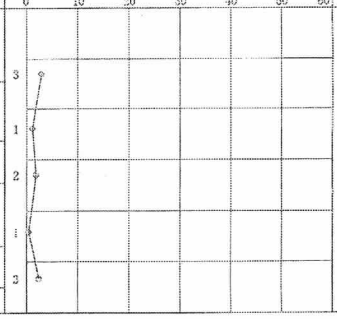
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	98.83	1.30	1.30		埋土	暗灰～黄灰			1.30mまで、礫混じり粘土 所々、礫混じる 下部、粘性土成分多い
2	97.53	1.30	2.60		埋土（火山灰質粘土）	黄灰			粘性中位 浮石、細礫混じる
3	97.13	0.40	3.00		旧表土	褐灰			有機質シルト状 腐植物混じる
4 5	94.63	2.50	5.50		火山灰質粘土	黄灰～暗灰			粘性に富む 少量の腐植物含有 所々、浮石混じる 5.0mより、暗灰色

孔内水位(m)／測定月日：2.29

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)
1.15	1	1	1	3/30
1.45				
2.15	1/25	1/22		2/47
2.62				
3.15	1/15	1/15		2/30
3.45				
4.15	1/55			1/55
4.70				
5.15	1/15	1	1	3/25
5.50				

N値



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
						6/25